『4校優勝』に思うこと

先日、全国中学校バスケットボール大会が終了しました。ニュースの見出しで『男子は４校優勝』という文字を見つけ、その時、私は「ああ、きっと４校とも感染症等の関係で試合が行われなくなり、準決勝に進出した４校が優勝したのだ」と思っていました。かつて国民体育大会の高校野球（硬式）においても天候不良の順延により４校が優勝ということがあり、今回の４校優勝も、特に気にしてはいませんでした。

ところが、今朝、雨の情報を調べようと思い、ネット検索をしていたところ、以下の記事を見つけました。非常に考えさせられるところがありましたので、今回、この欄に載せたいと思います。

以下、ネット記事の内容です。（BASKET COUNT ８月 23 日配信　文：鈴木健一郎）

８月 21 日に大会最終日を迎えた全中（全国中学校バスケットボール大会）だが、男子は最終日に予定されていた準決勝と決勝を消化することができなかった。準決勝では八千代松陰（千葉）と白新（新潟）、本山南（兵庫）と西福岡（福岡）の４チームが戦う予定だったが、八千代松陰と本山南が新型コロナウイルスの影響により棄権を余儀なくされた。これは前日までに行われた試合の対戦チームから新型コロナウイルスの感染が疑われる症状が出たためだ。 こうして準決勝の２試合がいずれも成立しなくなり、白新と西福岡が不戦勝で決勝へ。しかし両校ともに棄権を選択し、決勝も行われなかった。その後、４校の優勝という結果が伝えられた。 西福岡の関係者は、この日の出来事をこう振り返る。 「第１試合の開始時間である９時 20 分が過ぎても連絡がないまま待機していました。そのうちに、正式な通達ではないですが状況が漏れ伝わってくるわけです。西福岡 vs 本山南だけでなく、もう１試合も成立しそうにない。本山南と八千代松陰は体育館にも入れずバスで待たされている、泣きじゃくっている子もいる、という話も聞こえてきました。そんな子供たちの気持ちを考えると……。

正直、不戦勝で決勝に進めるとなれば選手たちに『ラッキー』という気持ちが出てきてもおかしくありません。ですが、相手の気持ちを考えずに喜ぶのはスポーツマンシップに反する、落ち着いて決定を待とう、と伝えました」 「そして、白新の先生と相談しました。残る２チームの選手たちの気持ちを考えると、ここで自分たちが決勝をやって勝っても『やった、優勝だ！』と喜べるのか。最初は試合をやりたい気持ちでしたが、決勝をやるのが正しいのかどうか。試合のできない２チームが納得できる結論はないものかと大会本部に申し出て、再度検討をお願いしました。こうして結果的に４校が棄権という形になりました」 こうして西福岡と白新の棄権を受け、大会本部は４チームの優勝とすることを決定した。

選手たちに『試合をしたかった』という思いがあったのは間違いない。西福岡の選手たちは、棄権することを伝えられると悔し涙を流したそうだ。ただ、本山南も八千代松陰も自分たちのチームから感染者を出したわけではなく、「自分たちが棄権しなければいけないチームになっていてもおかしくなかった」と諭され、次の言葉を投げ掛けられると状況を受け入れたそうだ。「今年は全国でいろんな競技のいろんな大会が中止になり、この全中も中止になるかもしれないとずっと言われ

ていた。最終日がこんな形で終わって残念だけど、みんなこの先も高校でもバスケを続ける。その時に、この時のことが良い経験になるかもしれない。区大会から始まってここまで来て、優勝できたことが素晴らしかったと思おう」 振り返れば去年は大会自体が中止となり、選手たちは全中のコートに立つことができなかった。今回は最後までとは行かなくても試合を戦い、優勝チームを決めることができたのは幸いだったとも言える。それでも、スポーツの舞台が新型コロナウイルスに振り回される状況はまだしばらく続きそうだ。

さて、これを読まれた方は、どのようにお考えでしょうか。決勝の試合をしても良かった、とお考えの方もおられるでしょうし、後から辞退した２校の判断を良しとされる方もおられるかと思います。もちろん、正解はありませんので、個々の考え次第かと思います。今回、この選択をした関係者の方は相当悩み、苦しんだことでしょう。中学生も簡単に受け入れることはできず、そうとう悩んだことと思います。当事者にしかわからない葛藤があったことと推測されます。この記事を読んだ私としては、これからの４校と選手たちの前途を祈るばかりです。

感染症は未だ衰えを知らず、私たちから多くのことを奪っています。このような時に、未だかつてなかったことを判断しなければならないことが多々あります。その判断が正しいのかどうかは、わかりません。学校においては、子ども達にとって何が一番良いのか…が判断基準になります。

太宰府西中学校では、安心安全を大前提とし、『子ども達にとっての最善の選択』を太宰府市教育委員会と連携しながら、これからも模索していきたいと思います。